

筑波大学研究チームが 私塾長善館の門下生の研究で来燕

～大河津分水通水 100 年を前に、治水に尽力した門下生の資料を収集します～

燕市では千人を超える門下生を輩出した私塾長善館に関する資料の整備などを平成 25 年から筑波大学に依頼しております。2022 年 8 月には大河津分水が通水して 100 年を迎えることから、今年度は治水に尽力した門下生の研究のため来燕し、資料収集作業を実施します。

【筑波大学長善館研究チームの来燕の概要】

- 日程：令和3年11月21日（日）～23日（火）
- 訪問先：11月21日（日） 13:00～長善館史料館
14:00～藤田家（長岡市）
11月22日（月） 10:00～大竹邸記念館（長岡市）
16:15～燕市役所鈴木市長訪問
11月23日（火） 10:00～信濃川大河津資料館
- 研究メンバー：筑波大学教授 中野目徹氏 同助教 田中友香理氏
筑波大学院生・学生5名
- その他：今年度の研究対象の門下生は大竹貫一を中心に調査を実施。



【大竹貫一プロフィール】

長岡市中之島生まれ。1871年12歳で長善館に入門。庄屋の6男として生まれる。実家の大竹家は歴代治水に精力を注いでいました。「横田切れ」の発生後は、国会で政府高官に対し、人々の窮状と大河津分水建設の必要性を説きました。通算16期、34年にわたり衆議院議員を務めました。

本件についてのお問い合わせ先
教育委員会 社会教育課：本田
電話：0256-63-7002（直通）